

群 教 七	G06 - 02
	令 5.284 集
	体育-小

工夫を繰り返し、自己の運動の楽しみ方を

見いだすことができる児童の育成

— 用具の使い方・規則の工夫を繰り返す活動と共有したことを自己の工夫に生かす活動を通して —

特別研修員 竹内 良輔

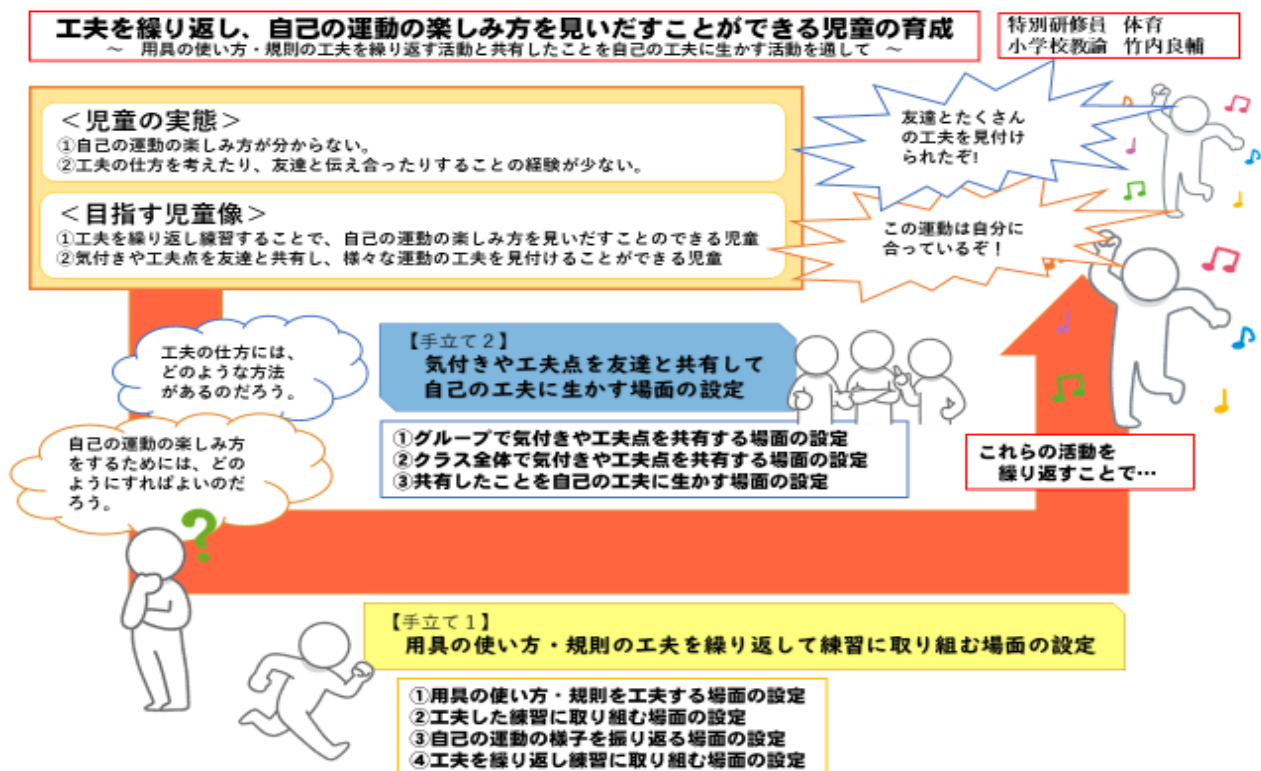
I 研究テーマ設定の理由

研究協力校では、児童の運動やスポーツに対する興味・関心は高い水準にある一方で、体育の授業においては、自己の運動の楽しみ方を考えたり、教師や友達と運動の楽しみ方を伝え合ったりすることに難しさを感じている児童が多い。そのため、多くの児童が、どのようにして運動の仕方を工夫すればよいか分からず、自分に合った運動が行えなかったり、運動のもつ楽しさを味わえなかったりして、自己の運動の楽しみ方を見いだせずにいる。

そこで本研究では、児童が自己の課題や力に応じて用具の使い方や規則を繰り返し工夫できるようにするとともに、活動中での気付きや工夫点を友達と共有させることで、友達の気付きや工夫点のよさを認め、多くの工夫を見付け、自己の工夫に生かすことができるようにしたい。これらの活動により、児童一人一人が、自己の運動の楽しみ方を見いだすことにつながると考え、本研究テーマを設定した。

II 研究内容

1 研究構想図



2 授業改善に向けた手立て

児童が自己の運動の楽しみ方を見いだすことができるように、以下の二つの活動を研究上の手立てとして設定し取り入れる。

手立て1 用具の使い方・規則の工夫を繰り返して練習に取り組む場面の設定

- 自ら用具の使い方・規則の工夫を繰り返して、練習に取り組める場面を設定し、自己の運動の楽しみ方を見いだすことができるようにする。
- 自己の運動の様子を振り返る場面を設定して、自己の動きの変化に気付かせるとともに、どのような工夫が必要なのかを考えられるようにする。

手立て2 気付きや工夫点を友達と共有して自己の工夫に生かす場面の設定

- 友達と気付きや工夫点を共有する場面を設定して、友達の気付きや工夫点のよさを認め、自己の工夫に生かすことができるようにする。

手立て1は、児童が、自己の課題や力に応じて用具の使い方や規則を工夫し、自己の運動の楽しみ方を見いださせるための手立てである。用具の使い方の工夫とは、児童自ら運動で使用する用具の使い方を選んだり、変えたりする活動である。具体的には、児童が、自己の課題や力に応じてボールの大きさを選んだり、ネットの高さを変えたりする活動である。次に、規則の工夫とは、自己の課題や力に応じて規則を選んだり、変えたりする活動である。具体的には、テニス型ゲームにおいてバウンドの回数を増やしたり、バスケット型ゲームにおいてダブルドリブルをなくしたりする活動である。これらの工夫を繰り返し行い練習に取り組む場面を設けることで、自己に合った練習や工夫をしながら自己の運動の楽しみ方を見いだすことができると考える。また、1人1台端末で自己の様子を振り返らせることで、自己の動きの変化に気付かせるとともに、次の練習の工夫を考えられるようにする。

手立て2は、活動中での気付きや工夫点を友達と共有させ、自己の工夫に生かせるようにするための手立てである。練習での気付きや工夫点を言葉で伝えたり、ホワイトボードに書いたりして友達と共有させることで、友達の気付きや工夫点のよさを認められるようにする。さらに、友達の気付きや工夫点を、自己の工夫に生かすことができるようにする。

III 研究のまとめ

1 成果

- 手立て1を講じたことにより、児童一人一人が、自己の運動の楽しみ方を見いだすために工夫を繰り返して、練習することができた。また、工夫した練習に何度も取り組めるようにしたこと、十分な活動時間の確保と共に、技能の向上にもつながった。
- 手立て2を講じたことにより、児童は、友達の気付きや工夫点のよさを認めたり、自己の工夫に生かしたりすることもできた。
- 動画で自己の運動する様子を振り返る活動を行わせたことにより、自己の成長を実感したり、自己の動きの変化に気付いたりすることができた。

2 課題

- 1人1台端末の機能（Google Jamboard など）を用いることで、自己の必要なタイミングで用具の使い方や規則の工夫点や気付きの共有を図ることができ、児童一人一人が、より多くの工夫を見付けることができたと考えられる。
- 小学校学習指導要領解説（平成29年告示）体育編では、低学年においても「運動遊びをする場や練習の仕方などを自らの力に応じて工夫したり、選択したりすること」と示していることから、自己の運動の楽しみ方を見いだすための活動は、低学年でも必要な活動であり、段階的な指導を行うことで、運動の行い方を工夫することへの意識が高まると考える。

実践例

1 単元名 「小型ハードル走」(第3学年・2学期)

2 本単元について

本単元は、箱を用いた小型ハードル走を、自己に合ったリズムで走り越えることをねらいとした授業である。「つかむ」過程では、試しの運動を行い、小型ハードル走の特性を理解させ、自己の課題を見付けられるようにした。「追究する」過程では、箱の高さや箱同士の距離の工夫を繰り返して練習することで、自己に合ったリズムで走り越えられるようにした。また、自己の様子を動画で振り返る活動を設定し、次の工夫を考えられるようにした。さらに、練習での気づきや工夫点を、ホワイトボードに記録したり、友達に言葉で伝えたりして共有させた。「まとめる」過程では、今までの練習の成果を発表するだけでなく、工夫してきたことや自己の工夫の変化などを共有することで、自己の成長を実感できるようにした。

以上のことから、本単元では、以下のような指導計画を構想し実践した。

目標	小型ハードル走を、自分に合ったリズムで走り越えられるようにする。 ア 小型ハードル走の特性を知り、自己に合ったリズムで走り越えることができるようにするとともに、自己に合ったリズムで走り越えることの楽しさを味わえるようにする。(知識及び技能) イ 自己に合ったリズムで走り越えることができるように、箱や箱同士の距離の工夫を繰り返して練習に取り組めるようにする。また、活動の中での気づきや工夫点を友達に伝えることができるようにする。(思考力、判断力、表現力等) ウ 小型ハードル走に積極的に取り組むとともに、友達の気づきや工夫点のよさを認めたり、安全に気を付けて運動ができるように準備や片付けたりすることができるようにする。(学びに向かう力、人間性等)	
評価規準	(1) 知識・技能 ① 小型ハードル走の特性を知り、箱の高さや箱同士の距離に気を付けながら適切に設置することができる。 ② 小型ハードル走を、自己に合ったリズムで走り越えることができる。 (2) 思考・判断・表現 ○ 自己に合ったリズムで走り越えるために、箱の高さや箱同士の距離の工夫を繰り返し、練習の中での気づきや工夫点を友達に伝えることができる。 (3) 主体的に学習に取り組む態度 ○ 小型ハードル走に進んで取り組み、話し合い活動に参加したり、準備や片付けを協力して行ったりすることができる。	
過程	時間	主な学習活動
つかむ	第1時 第2時	<ul style="list-style-type: none"> ・小型ハードル走の特性を知るとともに、自己の課題を見付ける。 ・自己に合ったリズムについて考え、目標を設定する。
追究する	第3・4 ・5時 (本時)	<ul style="list-style-type: none"> ・用具の使い方や規則の工夫を繰り返し練習することで、小型ハードル走を自己に合ったリズムで走り越えられるようにする。
まとめる	第6時	<ul style="list-style-type: none"> ・発表会を通して、練習してきた成果を発表する。

3 本時及び具体化した手立てについて

本時は全6時間計画の第5時に当たる。前時までの活動から、さらに自己に合ったリズムで走り越えるために、箱の高さや箱同士の距離の工夫を繰り返して練習に取り組むことを目的としている。また、本時では、用具の使い方や規則を工夫させるだけでなく、自己の体の使い方にも着目させることで、より自己に合ったリズムで走り越えるための練習ができるように、次のような手立てを講じた。

手立て1 用具の使い方・規則の工夫を繰り返して練習に取り組む場面の設定

- ・ 箱の高さと箱同士の距離の工夫を繰り返し、練習に取り組めるようにする。
- ・ 動画から自己の動きを振り返り、自己の工夫の仕方や体の使い方を考えられるようにする。

手立て2 気づきや工夫点を友達と共有して自己の工夫に生かす場面の設定

- ・ 友達と気づきや工夫点を共有して、友達の気づきや工夫点のよさを認め、自己の工夫に生かせるようにする。

4 授業の実際

本時は、第3・4時の学習での気付きや工夫点を基にして、自己に合ったリズムで走り越えるための練習を繰り返し行う。その練習では、箱の高さや箱同士の距離の工夫を繰り返したり、練習を通しての気付きや工夫点を友達と共有したりすることを手立てとして授業を構想した。

導入 → 練習① → 共有 → 練習② → 本時の振り返り・まとめ

導入では、前時までの活動を振り返り、どのような気付きや工夫点があったのかを想起させる。それを基に、本時のめあてを設定し、グループごとに、自己に合ったリズムで走り越えるための練習に取り組んだ。

(1) 手立て1 用具の使い方・規則の工夫を繰り返して練習に取り組む場面の設定

練習①と練習②において、自己に合ったリズムで走り越えるために、箱の高さや箱同士の距離の工夫を繰り返して練習できるようにした。箱の高さは、箱を設置する向きによって高さを変えられるようにした(図1)。また、箱同士の距離を変えられるように、3種類の距離を異なるテープ(黄5m、青5.5m、赤6m)でコース上に示すようにした。練習に取り組む際に、「箱の向きは1を上にする」、「箱同士の距離は、赤色のテープにしたい」と、グループの友達に伝え、協力して設定し練習に取り組んだ(図2・3)。また、練習した後に、撮影した動画で自己の練習している様子を振り返ることで、自己の課題に気付いたり、次の練習の工夫について考えたりできるようにした(図4)。この活動により、それぞれの児童が、自己に合ったリズムで走り越えることができるように、工夫して繰り返し練習に取り組むことができた。また、単元を通して、撮影した動画を振り返ることを続けたことにより、前時までの動画と比較して考える児童の様子も見られた。その中には、練習を続けるうちに変化していく自己の姿を見て、自己の工夫の変化や成長を実感する児童もいた(図5)。



図1 小型ハードルとして使用した箱



図2 用具の置く位置を変える児童



図3 工夫した練習に取り組む児童



図4 撮影した動画を友達と確認する児童

学習のふりかえり(工夫したことやできたことを書きましょう)
歩はぼを <u>げると</u> 赤、青、 <u>黄色</u> でもとべる
<u>歩数をかえると</u> 、とびやすい。 2番 <u>が</u> やりやすい。
<u>ゆっくりとんだら</u> 、2番の青のテープが1番やりやすかった。はこが3番のときはさいしょに下かいのたかに <u>むすわ</u> りかけた。

図5 自己の工夫の変化を記録したワークシート

(2) 手立て2 気付きや工夫点を友達と共有して自己の工夫に生かす場面の設定

練習を通しての気付きや工夫点を友達と共有できるようにした。まず、グループごとの練習では、自己の練習を通しての気付きや工夫点をホワイトボードに記録するようにした(図6)。また、アドバイスカードを基にして、気付きを言葉で伝える場も設定した。それぞれの児童が、友達がホワイトボードに書いた気付きや工夫点、言葉で伝えられたアドバイスを次の工夫に生かして練習に取り組んでいた。クラス全体で気付きや工夫点を共有する場面では、それぞれのグループで使用したホワイトボードや撮影した動画を基にして共有する活動を行った(図7)。これらの活動を通して、それぞれの児童が、自己の練習での気付きや工夫点を友達と共有し、友達の気付きや考えのよさを認めたり、自己の工夫に生かしたりする様子が見られた。また、用具の使い方や規則の工夫点や練習を通しての気付きを共有する活動を繰り返し行ったことにより、友達の工夫にも着目するようになり、どのような工夫をするとよいか一緒に考える児童もいた。

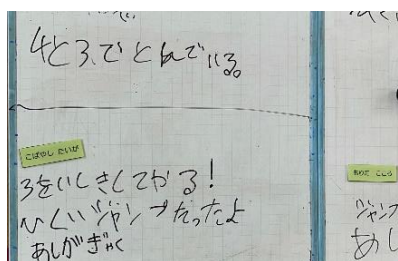


図6 気付きや工夫点を記録した
ホワイトボード



図7 クラス全体で気付きや工夫点
を共有する場面

5 考察

用具の使い方・規則の工夫を繰り返して練習に取り組む場面の設定では、全ての児童が自己の力に応じて用具の使い方を工夫したり、規則を選択したりして、自己の運動の楽しみ方を見いだすための活動に取り組むことができた。また、工夫した練習に何度も取り組めるようにしたことで、十分な活動時間を確保することができ、運動量の確保だけでなく技能の向上にもつなげることができた。さらに、自己の動きを振り返る場面を設定したことにより、自己の課題を見直したり、自己の工夫を考えたりする姿が見られた。この手立てにおいては、安全に活動することに留意しながら用具の使い方や規則を工夫させることで、それぞれの児童が、よりよい運動の仕方を考え、自己の運動の楽しみ方を見いだすことができると考える。このことから、用具の使い方・規則の工夫を繰り返して練習に取り組む場面の設定することは、自己の運動の楽しみ方を見いだすために有効な手立てであると考えられる。

気付きや工夫点を友達と共有し自己の工夫に生かす場面を設定したことにより、児童は、友達の気付きや工夫点のよさを認めたり、多くの工夫を見付けたりすることができ、自己の工夫に生かすことができた。また、この活動を、単元を通して繰り返し行ったことにより、工夫に着目して運動するようになり、友達と工夫の仕方考える姿が見られるようになった。友達と気付きや工夫点を共有することは、自己の運動の楽しみ方を見いだすことだけでなく、友達と多くの工夫点を見付けることにつなげることができると考える。

課題点として、本研究では、児童が自己の運動の楽しみ方を見いだすことができるように、工夫を繰り返して練習する時間を多く設定した。これにより、クラス全体で気付きや工夫点を共有する時間を確保することが難しくなってしまった。しかし、他のグループの友達と気付きや工夫点を共有することも課題を解決するためには必要であるため、1人1台端末の機能(Google Jamboardなど)を使い、児童が必要なタイミングで他のグループの児童と共有を図ることができれば、よりよい活動になると考える。また、低学年から自己の運動の楽しみ方を見いだすことができるようにするために、段階的な指導を継続的に行うことで、運動の行い方を工夫する力を高めていく必要があると考える。

本報告書に記載されている商品又はサービスなどの名称は、各社の商標又は登録商標です。

各者の商標又は登録商標

Google Jamboardは、Google LLCの商標又は登録商標です。

なお、本文中には、TMマーク、[®]マークは明記していません。